

---

## The MIDORI Prize for Biodiversity 2016 のノミネーションを開始

2016年2月15日 東京、モンテリオール： 受賞者の優れた業績を紹介することにより、生物多様性に関する積極的な活動を支援し、また人々の関心を高めることを目的として「The MIDORI Prize for Biodiversity 2016（第4回生物多様性みどり賞）」のノミネーションが開始されました。ノミネーションの受付期間は2016年2月15日から6月30日です。

The MIDORI Prize は、公益財団法人イオン環境財団と生物多様性条約事務局の共催による隔年開催の国際賞で、生物多様性の保全と持続可能な利用に関し顕著な功績のある個人3名を顕彰するものです。

本賞は、国際生物多様性年であった2010年にイオン環境財団によって創設されたもので、2016年に第4回目の開催を迎えます。

岡田卓也（公益財団法人イオン環境財団 理事長、イオン株式会社 名誉会長）

「生物多様性の保全と気候変動の防止は、現代における重大な2つの環境問題とされています。当財団は、本賞がこうした地球規模の環境問題、愛知ターゲットの達成、および国連生物多様性の10年（2011－2020年）の目的に貢献できればと考えています。」

ブラウリオ・フェレイラ・デ・ソウザ・ジラス（生物多様性条約 事務局長）

「「The MIDORI Prize」は、生物多様性に特化した唯一の国際賞です。本賞が、優秀なる個人の傑出した業績を顕彰することにより、人類に対する生物多様性の基本的な役割と「国連生物多様性の10年」の目標に関する人々の認識が高まるものと思っております。」

本賞は、生物多様性条約第13回締約国会議にあわせ、メキシコ カンクンにおいて2016年12月に開催される授賞式において授与されます。

一般の方々からのノミネーションについては、本賞のウェブサイトにて受け付けております。

[www.midoripress-aeon.net/](http://www.midoripress-aeon.net/).

-----

---

## 編集者註

### The MIDORI Prize for Biodiversity

主催：公益財団法人イオン環境財団

共催：生物多様性条約事務局

後援：環境省

**創設：**本賞は、国際生物多様性年、名古屋における生物多様性条約第10回締約国会議、およびイオン環境財団の設立20周年を記念して、同財団により2010年に創設されました。

**賞の授与：**本賞は、生物多様性条約第13回締約国会議にあわせ、2016年12月メキシコ カンクンにおいて開催される授賞式において、3名の受賞者に授与されます。また各受賞者には副賞賞金10万USドルが贈られます。受賞者の発表は同年10月に予定されています。

ノミネーションはアワード公式ウェブサイト「The MIDORI Press」にて受け付けております。：

[www.midoripress-aeon.net/](http://www.midoripress-aeon.net/)

ノミネーション期間: 2016年2月15日～6月30日

### 審査委員会（敬称略、2016年2月15日現在）

#### 審査委員長

岡田 卓也

公益財団法人イオン環境財団 理事長

#### 審査委員（アルファベット順）

##### 共催者代表

ブラウリオ・フェレイラ・デ・ソウザ・ジラス

生物多様性条約 事務局長

マリアナ・ベヨット

国連開発計画 生物多様性資金イニシアティブ  
(BIOFIN-Mexico) ナショナル・コーディネーター

崔 在天（チェ・ジェチョン）

韓国生態院 創設院長

梨花女子大学 エコサイエンス特別教授

岩槻 邦男

東京大学 名誉教授

黒田 大三郎

公益財団法人地球環境戦略研究機関 シニアフェロー

あん・まくだなるど

上智大学大学院 地球環境学研究科 教授

高野 孝子

早稲田大学 留学センター 教授

涌井 史郎

東京都市大学 環境情報学部 教授

国連生物多様性の10年日本委員会 委員長代理

---

## 歴代受賞者（敬称略）

### 2010 年

ジャン・ルミール（カナダ） 生物学者 探検家 映画製作者

グレッチェン・C・デイリー（米国） スタンフォード大学 教授

エミル・サリム（インドネシア） インドネシア大統領諮問会議 議長、元インドネシア人口・環境大臣

#### 国際生物多様性年特別賞

アンゲラ・メルケル（ドイツ） ドイツ連邦国首相

### 2012 年

フアン・カルロス・カスティージャ（チリ） チリ カトリカ大学生態学部 教授

ロドリゴ・ガメス＝ロボ（コスタリカ） コスタリカ生物多様性研究所（インビオ）代表

ボ・クイ（ベトナム） ベトナム国家大学ハノイ校自然資源管理・環境研究センター名誉総長

### 2014 年

カマル・バワ（インド） アショーク生態学環境研究トラスト（ATREE、インド）代表、マサチューセッツ大学 ボストン校 特別教授

アルフレッド・オテング＝イエボア（ガーナ） ガーナ生物多様性委員会 議長

ビビアナ・ヴィラ（アルゼンチン） ビクーニャ／ラクダと環境 学際研究プロジェクト（VICAM）代表、アルゼンチン学術研究会議（CONICET） 主席研究員

---

## 公益財団法人イオン環境財団

公益財団法人イオン環境財団は、平和の追求、人間の尊重、地域への貢献というイオンの基本理念に基づき、1990年に設立されました。

当財団は、設立以来、環境活動を行う団体への助成や、国内外での植樹活動、また、生物多様性の保全と持続可能な利用を促進するために、顕彰をはじめ、環境分野での人材育成にも取り組んでまいりました。設立25周年を迎えた昨年は、地球環境保全が世代と国境を越えた課題であるとの認識のもと、中国北京市において第4回「日中環境国際シンポジウム」を開催し、「イオン北京環境提議」を締結致しました。

生物多様性の保全と地球温暖化防止は、現代における最重要課題とされています。みどり賞がこうした世界的な課題に取り組むきっかけとなり、2010年採択の愛知ターゲットや、「国連生物多様性の10年」のさらなる推進に貢献できれば幸甚です。

住所：〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1

ホームページ：<http://www.aeon.info/ef/>

## 生物多様性条約

生物多様性条約は、1992年にリオ・デ・ジャネイロで開催された国連環境開発会議（地球サミット）で採択された国際条約の1つで、翌1993年12月に発効しました。同条約は、生物多様性の保全、生物多様性とその構成要素の持続可能な利用、遺伝資源の利用から生じる利益の公正な配分を目的としています。現在の締約国は196ヶ国であり、全世界的に加盟されている条約です。同条約は、科学的な評価、ツール開発、インセンティブとプロセス、技術や優れた実践事例の移転、先住民族・地域コミュニティ・ユース・NGO・女性・ビジネスコミュニティ等、関連ステークホルダーの積極的で十分な参加により、気候変動による脅威など生物多様性や生態系サービスに対するあらゆる脅威に取り組んでいます。「バイオセーフティに関するカルタヘナ議定書」と「生物の多様性に関する条約の遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する名古屋議定書」は、生物多様性条約に基づく補助的な合意です。「カルタヘナ議定書」は、2003年9月11日に発効したもので、現代のバイオテクノロジーによって作られた遺伝子組換え生物（Living modified organism; LMO）から生じうるリスクから生物の多様性を保全することを目的としており、現在、世界170の締約国が同議定書に批准しています。「名古屋議定書」は遺伝資源の利用により生じうる利益について、遺伝資源への適正なアクセスや関連技術の適正な移転などにより、公正かつ衡平な方法による配分を目的とするものです。同議定書は2014年10月12日に発効し、現在、70の締約国により批准されています。詳しくは、「生物多様性条約事務局ホームページ（[www.cbd.int/](http://www.cbd.int/)）」をご覧ください。

担当者 David Ainsworth on +1 514 287 7025 or at [david.ainsworth@cbd.int](mailto:david.ainsworth@cbd.int); or Johan Hedlund on +1 514 287 6670 or at [johan.hedlund@cbd.int](mailto:johan.hedlund@cbd.int).

本賞の詳細については「The MIDORI Press」をご覧ください。：[www.midoripress-aeon.net/](http://www.midoripress-aeon.net/)